

## 事業報告書 (平成29年度)

事業名 岡山市立岡山後楽館高校生によるトンボの森づくり体験と環境学習

団体名 岡山市立岡山後楽館高等学校 担当者名 柴田美智子

※活動の様子がわかる写真(データもお願いします)と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容(日時、場所、参加対象者、人数、内容等)

#### 1. 「トンボの森づくり体験と環境学習」

平成29年6月28日(水) 15:50~17:30 岡山後楽館高等学校 1・2年次生 27名参加

「事前指導」 講師 小桐 登 様

- ・今回の事業内容の説明(昨年の実施報告書を使用)
- ・森の機能や役割について(冊子「まにわのわ」とプレゼンテーション資料を使用)
- ・森の整備の必要性について
- ・化石燃料に頼らない、自然資本を生かした経済の循環や自然の範囲の中で生活する日本人の知恵の伝承や新しいライフスタイルについて

平成29年7月17日(月) 8:00~18:00

トンボの森、津黒高原荘など 1・2年次生 26名参加

「トンボの森づくり体験と環境学習」

講師 小桐 登 様 和田 厚志 様

#### ① オリエンテーション

・真庭トンボの森づくり活動の説明(目的、関係団体、活動の経緯、森の変化など)

・森の作業の注意と作業方法の説明、準備運動、身支度

#### ② 移動、講義、作業

・移動しながら森の整備状況の説明

・森の機能を考える

・森の役割と日本人の暮らしの関わり方の変遷の説明(かつては、山菜やキノコなどを食物として利用したり、木を伐採して薪として利用していたが、現在は森の中にあるものを使わなくなった。このような生活スタイルの変化が森に与えた影響と今後について)

・プロの林業家による木の伐採デモと有用樹の解説

・笹刈り、除伐、木の運搬作業

#### ③ 森の作業

・伐採木の皮むき体験

#### ④ 森を楽しむプログラム



オリエンテーション



笹刈り



伐採木の皮むき体験

・森の散策 (ネイチャーゲーム)

・ハンモック体験

⑤ 薪ボイラーの見学と薪割り場の  
見学

⑥ 感想、振り返り



薪ボイラー



ネイチャーゲーム

平成 29 年 9 月 6 日(水) 15:45~16:35 岡山後楽館高等学校

1・2 年次生 24 名参加

「事後指導」 講師 小桐 登 様

・体験を通して、気づいたことや学んだことの振り返り

・課題や問題だと感じたこと

・体験によって感じた事をもとに、自分たちは出来ることは何か

以上 3 点についてグループで話し合い、情報を共有した。



ハンモック体験

2. 「西川水族館」

平成 29 年 10 月 8 日(日) 11:00~16:00 西川緑道公園

1~3 年次生 9 名参加

平成 30 年 1 月 28 日(日) 11:00~16:00 西川緑道公園

1・2 年次生 3 名参加

・山川海のつながりをしっかり理解した生徒による、「西川水族館」の実施

・川の環境を守ることの大切さを多くの人に伝えた。



西川水族館

## 2. ESD の視点を取り入れたところ、ESD の視点で見直したところ

・「トンボの森づくり体験と環境学習」を岡山後楽館高等学校の「まちなかのふるさと教育」の一貫の活動とすることで、年 1 回だけ実施する活動に終わらせず、西川や瀬戸内海の環境についても学びを深める。

・山川海のつながりをしっかり理解した生徒が西川の環境保全活動の 1 つとして「西川水族館」を実施し、川の環境を守ることの大切さをこれからも多くの人に伝えていく。

## 3. 取組の成果 (参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など)

・森づくりを学んだ一部の生徒が、川や海についても学びを深め、岡山市主催の西川緑道公園周辺で行われる歩行者天国で「西川水族館」を実施し、岡山市民に森の役割や川や海とのつながりについて情報発信を行った。

・実際に森に入り、街の中との空気感の違いを肌で感じ、笹刈りや間伐木の皮むきを体験して森を守ることの大変さや必要性を感じた生徒が多い。

・生徒の感想

「森を管理する人材が足りないことを解消するために、体験教室を定期的に開いて人手を集め、森を管理しながら森の役割や大切さ、地域での経済の循環について広く伝えていけたらいいと感じた。」

「石油はあと60年くらいでなくなってしまうので、昔の人たちの暮らしを学び、石油の使用量を減らしていきたい。また石油を輸入することで、日本のお金が海外に出て行くので日本国内や地域内での経済の循環が大切である。」

「土砂災害の原因の一つが、針葉樹が原因だということが始めて分かった。針葉樹は根が真っ直ぐ伸びるため土砂崩れが起きやすくなったのだと聞き、広葉樹が多い里山の必要性を改めて感じた。」

#### 4. 今後の課題と展望

・これからも山川海のつながりを継続的に学びながら、西川の環境保全活動として「西川水族館」の取組を行い、西川の自然の豊かさを伝えるとともに、この取組を見た方に川を大切にしようという意識をもってもらえたり、森の役割や森を守ることの意味を伝えたりするようにする。

・森づくり活動の企画立案に参加し、継続的に森の学習を続ける。

・森の案内、ネイチャーゲームなどの森の活動のサポートが出来るようになる。

・参加生徒から継続してほしいという意見が多いため、今後も「森づくり体験と環境学習」の活動を継続できるよう、生徒負担を軽減するために助成金などを申請する。